

令和8年度

上八万小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○分かる授業の実践により、基礎的・基本的な力の定着を図る
○安心できる学びの中で、自分の考えや思いを進んで発信できる児童の育成

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

評価カードを用いた教員の自己評価や、管理職による授業参観など様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○基礎・基本的な計算の力が定着してきている。</p> <p>●漢字の読み書きの力は、身に付いてきているが、定着までには十分ではないところがある。</p> <p>○朝学習に読書の時間を取り入れることで、本に親しむ姿が見られるようになった。</p> <p>●年度末の児童アンケートでは、「進んで読書に取り組むことができています」の質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、前年度より下回った。</p>	<p>・四則計算の確認テストで、正答率9割以上の児童を上学年は80%以上、下学年は85%以上にする。</p> <p>・漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童を上学年は85%、下学年は80%以上にする。</p> <p>・進んで読書に取り組むことができる児童の割合を80%以上にする。</p>	<p>・朝学習の時間で、取り組む内容を曜日ごとに決め、見直しを持って、漢字や計算のドリル学習や小テストに取り組むことができるようにする。</p> <p>・月曜日の朝学習の時間を読書に設定し、「一人で一冊を15分間」を合い言葉に全校で読書に取り組む。</p> <p>・毎週1回図書室に行き、全員が図書室の本を借りる機会を作る。</p> <p>・学級文庫の入れ替えをする等、環境を整える。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○朝の活動等の短い時間を活用して、聞き取りの活動を取り入れることで、話を聞こうとする態度が育ってきている。</p> <p>●話を最後まで聞いたり、正しく聞き取ったりできない児童がいる。</p> <p>○ペアやグループでの話し合いの機会を多く設定することにより、発表が苦手な児童もグループ内で発表できるようになってきている。</p> <p>●全体の場で発表する時になると、苦手意識をもつ児童もいる。</p>	<p>・友達の発表や教師の言葉を、最後まで落ち着いて、正しく聞き取ることができる。</p> <p>・相手に伝わるように理由や事例を挙げながら、場に応じた適切な言葉遣いで、全体の場でも進んで自分の考えを話すことができる。</p>	<p>・聞く力を育てるプリント集のコーナーを設置して、朝の活動等の短い時間を利用して、児童の実態や発達段階に応じて聞き取りプリントを積極的に活用する。</p> <p>・ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりする時間や機会を多く取る。</p> <p>・クラス全体が友達の話を聞こうとする態度を育てることで、安心して発表できる場を作る。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○静かに落ち着いて話を聞き、学習規律を守ろうとする雰囲気が育っている。</p> <p>○与えられた課題を真面目に取り組むことができる。</p> <p>●困難な課題や苦手な課題に対して、諦めず解決しようとする意欲が低い児童がいる。</p>	<p>・学習活動に見直しをもち、めあてをつかみ、自分の考えをもって、話し合い活動などに参加し、主体的に学習することができる。</p> <p>・日々の課題学習を正確に丁寧に行い、困難な課題に対して粘り強く取り組むことができる。</p>	<p>・ICTを効果的に活用するとともに、めあてを提示し、「めあて」から「ふり返し」までの授業の流れを大切にしながら、分かりやすい授業を行う。</p> <p>・体験活動や出前授業を取り入れ、学習に対する興味関心を高める。</p> <p>・ペアやグループでの話し合いの機会をもち、友達と共に学び合うことができるようにする。</p> <p>・「家庭学習の手引き」の活用を積極的に行う。</p>			